

LNG低温流体ガスケット事例

マイナス56°C～マイナス196°Cの激しい温度変化フランジへの取付



南フランスのLNG基地において、ポンプ運転中マイナス56°C～マイナス196°Cまでの低温における激しい温度変化が原因とみられる漏れが発生し増し締め等で大変手間がかかっていました。

そこで2016年9月にFISHBONE®ガスケットへの置き換えを行いました。3年強経った2019年12月現在、コールドボルトテイングや増し締め等を全く行わず漏れもなく順調に稼働中です。

国名：フランス

工場：LNG基地

温度：マイナス56°C～マイナス196°C

内圧：6Bar

ボルト：M27×36本

サイズ：外径約1120 316L/PTFE

